

学生タウンなごや推進ビジョン

(案)

平成27年12月

目次

1	策定の趣旨、位置づけ	1
2	学生を取り巻く現状	2
	1 データから見た現状	
	2 学生から見た現状	
3	社会潮流の変化 ～若者の減少と圏外流出～	10
	1 若者の減少	
	2 学生の圏外流出	
4	大学や学生の取り組み	14
	1 大学における地域連携の取り組み	
	2 ナゴ校	
5	課題整理	18
6	基本目標と方向性	20
7	実現に向けた取り組み	22
8	推進体制	28

「なごや」とは

名古屋市内へ通学する学生（大学生や短期大学生など）の居住範囲や、名古屋市内から通学する学生の通学範囲は、名古屋市内にとどまらず愛知県全域、岐阜県と三重県の一部におよびます。そこで、愛知県全域、岐阜県と三重県の一部を含めた地域を「なごや」とします。

1 策定の趣旨、位置づけ

1-1 策定の趣旨

- 少子化の進行や都市間競争の激化による圏域外への流出などにより、今後学生数が減少することが懸念されています。学生数の減少は、経済規模の縮小や都市の活力や魅力の低下を招く恐れがあります。
- こうした情勢のもと、大学（短期大学などを含む）・地域・企業・行政が連携し、長期的な展望をもって、学生から選ばれるまちづくりをすすめていく必要性が高まっています。
- 学生タウンなごや推進ビジョンは、「若い世代が、学び、遊び、働けるまち」を実現し、学生から選ばれるまちづくりをすすめるため、大学・地域・企業・行政が互いに共有し一体となって取り組む基本目標や、その方向性を定めるものです。

1-2 位置づけ

- 学生タウンなごや推進ビジョンは、名古屋市総合計画2018の着実な推進を支えるとともに、名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる「若い世代の希望がかなうまち」の実現に向け、取りまとめるものです。
- 名古屋市で活動する学生を対象としますが、学生や大学の活動が市域を越え行われていることをふまえ、より広域的な視点で取りまとめます。

名古屋市総合計画2018

～若い世代が、学び、遊び、働けるまちをつくります～

○若者の活力による魅力あふれるまちづくり

○大学と地域の連携によるまちづくり

名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～若い世代の希望がかなうまちへ～

学生タウンなごや推進ビジョン

○大学、地域、企業、行政が互いに共有する基本目標や方向性を定める

2 学生を取り巻く現状

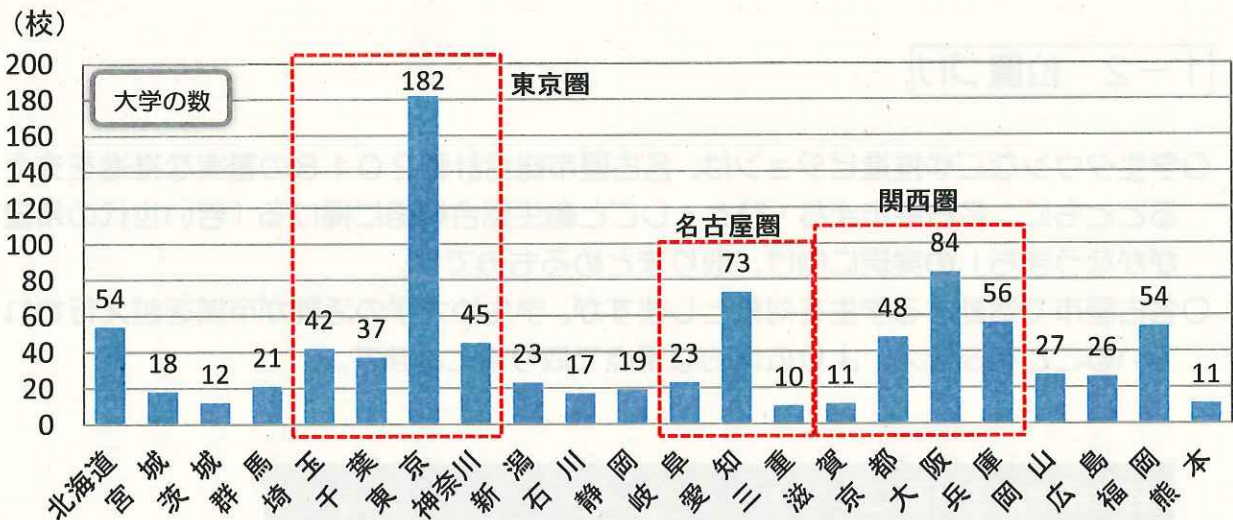
2-1 データから見た現状

学びの場所、働く場所、住み続ける場所として見た現状を整理します。

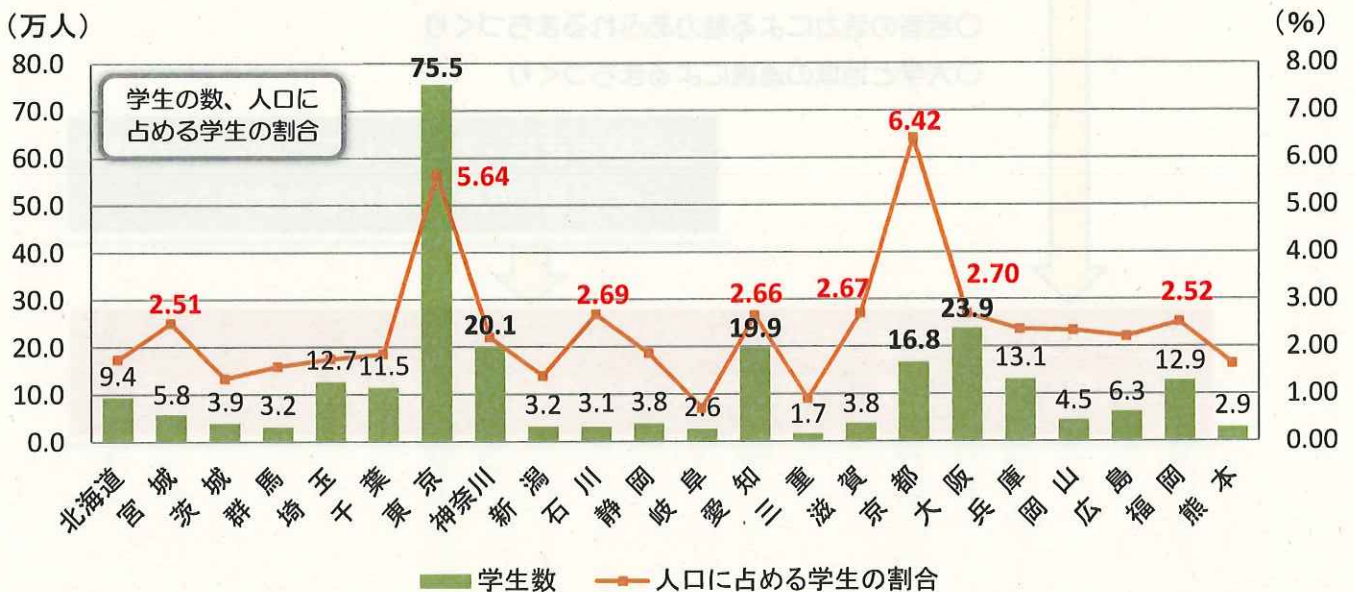
(学びの場所として)

【大学、学生が多く集まる】

○名古屋圏（愛知、岐阜、三重）には、東京圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）、関西圏（大阪、京都、兵庫、滋賀）に続き、多くの大学が集積しています。人口に占める学生の割合も、京都府や東京都ほどではないものの、全国的に見て高くなっています。



文部科学省「平成 26 年学校基本調査」より

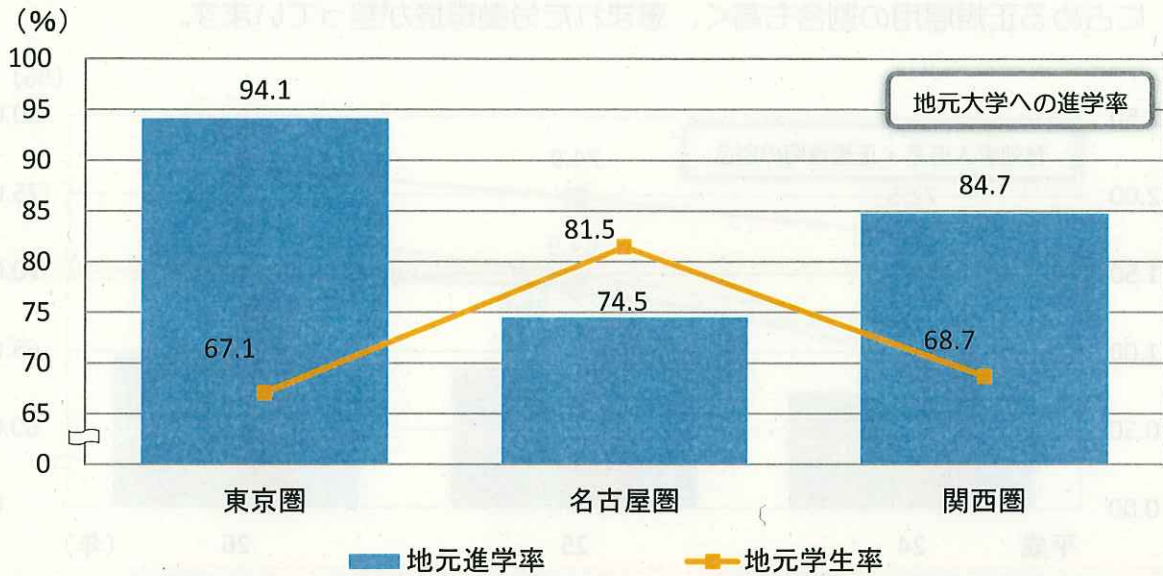


文部科学省「平成 26 年学校基本調査」より

【大学における地元高校を卒業した学生の割合が高い】

○名古屋圏における高校を卒業した学生のうち、地元大学に進学した学生の割合（地元進学率）は74.5%と、東京圏や関西圏に比べて低くなっています。

○一方、名古屋圏における大学に通う学生のうち、地元高校を卒業した学生の割合（地元学生率）は81.5%と、東京圏や関西圏と比べて高くなっています。

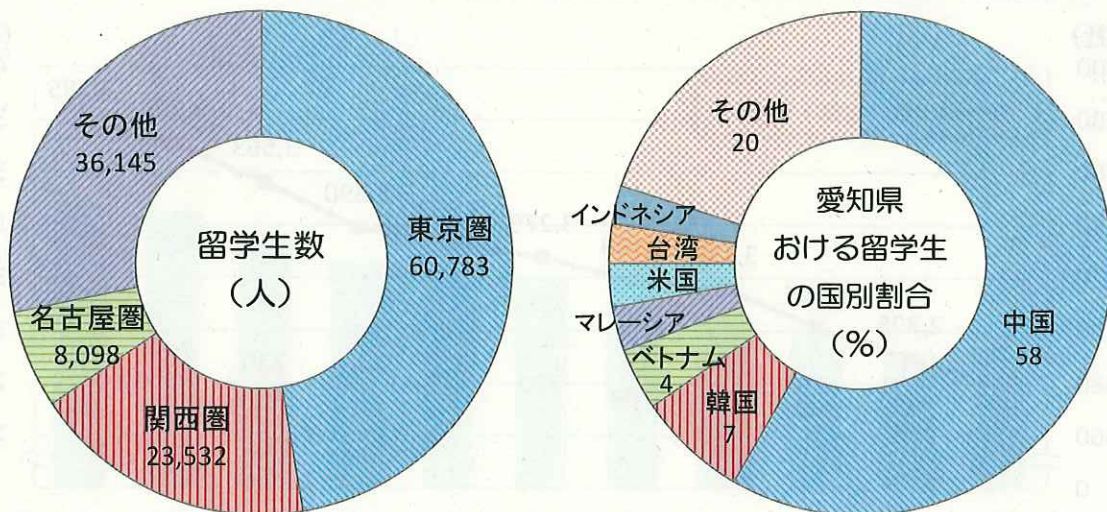


文部科学省「平成26年学校基本調査」より

【アジア圏からの留学生の割合が高い】

○中国をはじめとする、アジア圏から多くの留学生が訪れ学んでいます。

出身国で見ると、中国が6割近くを占め、韓国、ベトナムの順となっています。



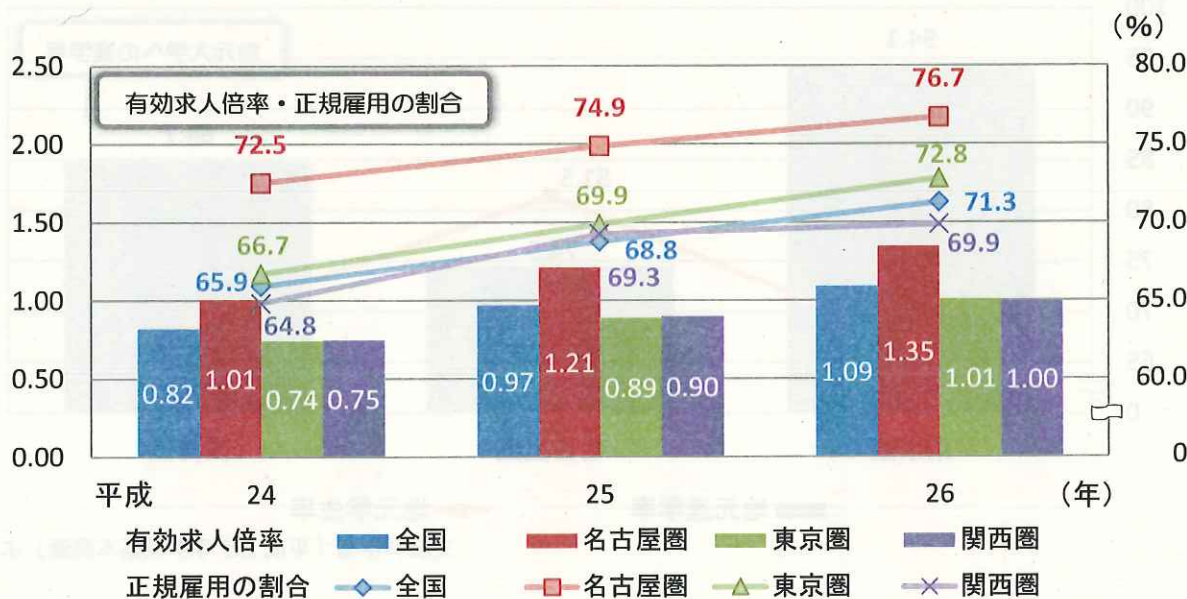
独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
「平成26年度外国人留学生在籍状況調査」より

愛知県留学生交流推進協議会
「平成26年愛知県留学生数など調査」より

(働く場所として)

【企業の求人倍率が高い・正規雇用の割合が高い】

○名古屋圏における有効求人倍率は、いずれの年度においても全国平均を上回り、東京圏や関西圏に比べて高い値となっています。また、名古屋圏における大学卒業者に占める正規雇用の割合も高く、恵まれた労働環境が整っています。



厚生労働省「職業安定業務統計」より

【企業の海外進出がすすむ】

○愛知県における企業の海外進出は、過去 10 年、右肩上がりに増えています。進出拠点数は、過去 10 年間で約 1000 拠点増加しています。



公益財団法人あいち産業振興機構
「愛知県内企業の海外事業活動調査」より

(住み続ける場所として)

【家賃が低廉】

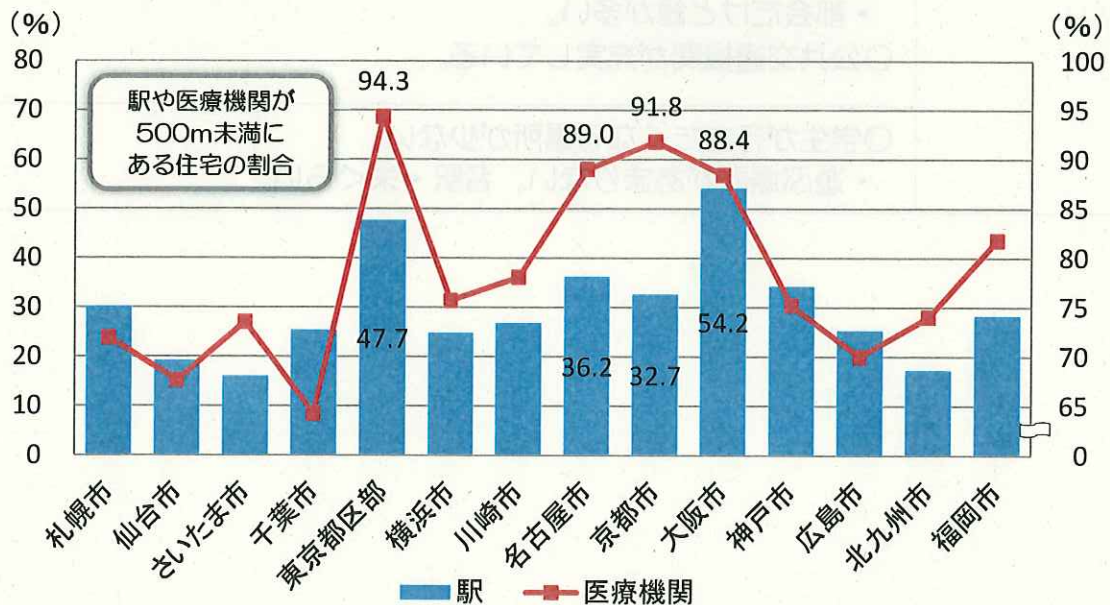
○名古屋市における家賃は、東京都区部や大阪市に比べて低くなっています。名古屋市の家賃は、東京都区部の家賃の約6割弱にすぎません。



総務省「平成 25 年住宅・土地統計調査」より

【駅や医療機関が近くにある】

○名古屋市における駅や医療機関までの距離が 500m未満の住宅が占める割合は、それぞれ 36%、89%と、東京都区部などにはおおよばないものの、他の政令市に比べて高くなっています。



総務省「平成 25 年住宅・土地統計調査」より

2-2 学生から見た現状

学生ヒアリングをもとに、学生から見た現状を整理します。

(実施状況)

名古屋市内の大学に通う大学生（計 27 人）に対し、グループヒアリングを実施しました。

(ヒアリング結果から)

学びの場所 として	<ul style="list-style-type: none">○なごや以外の学生に知られていない。・大学の知名度が低い。○難関大学が少ない。・自分の学力にあった私立大学がない。○（地元の人ばかりで）なごやの大学は閉鎖的。・一人暮らしをする時、少し心配だった。
働く場所 として	<ul style="list-style-type: none">○工学部学生の就職先が豊富。○（東京に比べて）就職の選択肢が限られている。・特にマスメディア関連は選択肢が少ない。
住み続ける 場所として	<ul style="list-style-type: none">○東京に比べて家賃が安い。○コンパクトで動きやすい。○適度に都会で生活しやすい。・いい感じに都会。東京、大阪はごちゃごちゃしている。・都会だけど緑が多い。○公共交通機関が充実している。
	<ul style="list-style-type: none">○学生が行きたくなる場所が少ない。・遊ぶ場所があまりない。名駅・栄ぐらい。

ナゴ校（4-2参照）の学生が、質問項目を作成し調査したアンケートの結果をもとに、学生から見た現状を整理します。

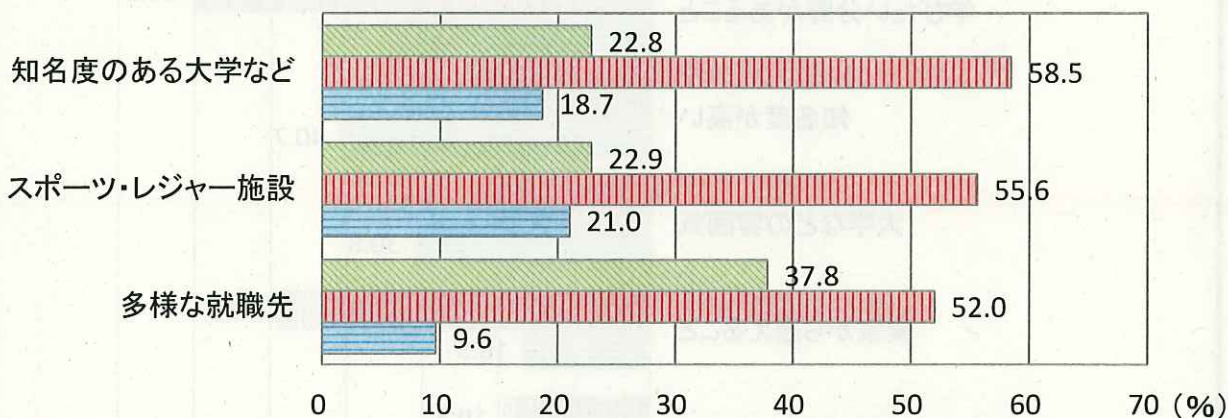
（実施状況）

大学など（大学・高等専門学校・大学院）で学ぶ全国の学生を対象にアンケートを実施し、823名の学生から回答がありました。

（アンケート結果から）

【東京圏、関西圏と比べてすぐれていること、劣っていること】

○「知名度のある大学など」、「スポーツ・レジャー施設」、「多様な就職先」において、東京圏や関西圏と比べてなごやが劣っていると思う割合が高くなっています。



- なごやにはあると思うし、東京圏・関西圏と比べてすぐれていると思う
- なごやにはあると思うが、東京圏・関西圏と比べて劣っていると思う
- なごやにはないと思う

【改善されるとよいと思うところ】

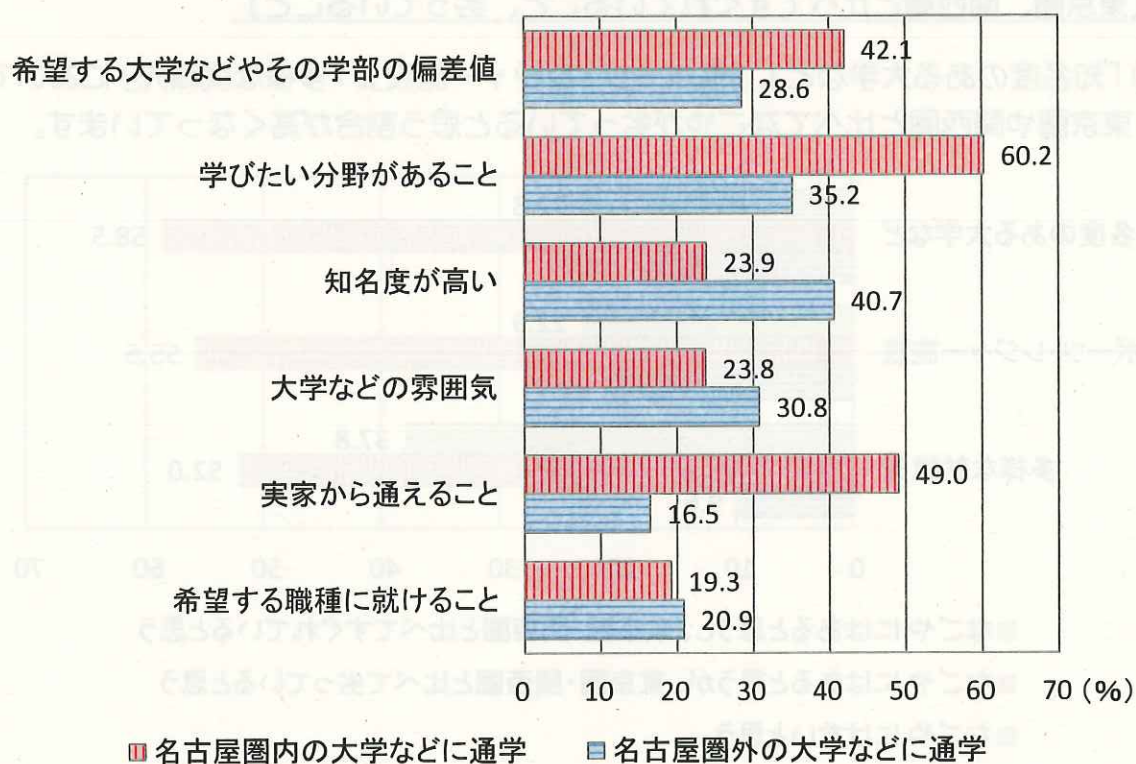
学びの場所として	○学生の結びつきが弱いように感じるので、学生が自由に利用でき、多方面で活動している学生同士が繋がる場があるとよい。
住み続ける場所として	○観光や食べ物など、いいものが揃っているものの、それらの魅力を発信できていない気がするので、全国、全世界へ発信した方がよい。 ○東京や大阪のように突出した魅力（テーマパークなど）がほしい。 ○外国人が興味を持つような日本を感じられるまちにしてほしい。 ○運転マナーを改善してほしい。

【トピックス】 学生アンケートからわかる大学選びの現状

ここでは、前述のナゴ校生によるアンケートをもとに、学生が大学などを選ぶ際に重要視するポイントや、参考にする意見などの現状を整理します。

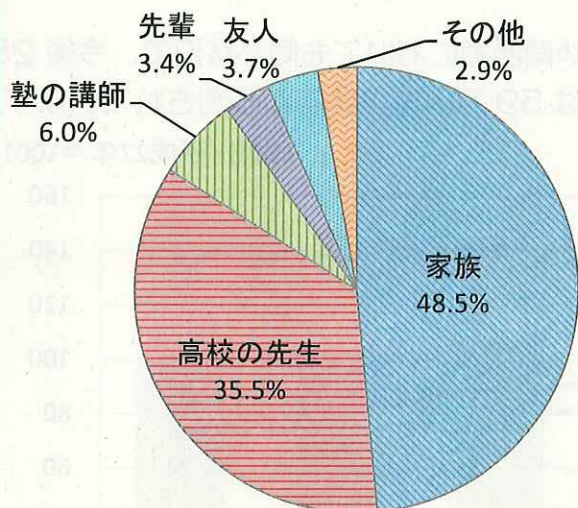
【大学などを選んだ際に重要視したポイント】

○大学などの選択で重要視したポイントとしては、「学びたい分野があること」が一番高い割合となっています。また、名古屋圏内の大学などに通学する学生は「実家から通えること」を、一方、名古屋圏外の大学などに通学する学生は「大学の知名度」を重要視する割合が高くなっています。



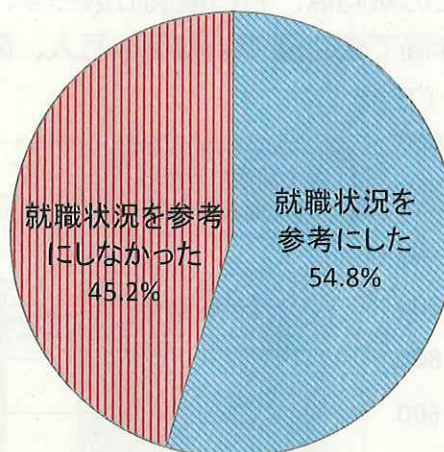
【大学などを選ぶ際、^{だれ}誰の意見をもっとも参考にしたか】

○大学などの選択については、約5割の学生が家族の意見を参考にしています。



【大学などの就職状況を参考にした上で、大学などを選んだか】

○大学などの選択については、約5割の学生が就職状況（就職率、就職先など）を参考にしています。



【大学などを選ぶ際に情報としてどのようなものがほしかったか】

大学に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ○大学生の「生の声」 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生と大学生の交流の場 ○授業やキャンパスの様子 <ul style="list-style-type: none"> ・授業やキャンパスの様子がわかる映像 ・より豊富な体験授業 ○他大学との違い <ul style="list-style-type: none"> ・その大学でしかできない授業やイベントなどの情報
就職に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ○大学での就活サポートに関する情報 ○大学を卒業した学生の就職先と体験談 ○学内での資格取得に関する情報
生活に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ○学生の1週間のスケジュール ○交通アクセス、大学周辺の飲食店などの情報、家賃など大学周辺で一人暮らしをする上で役立つ情報

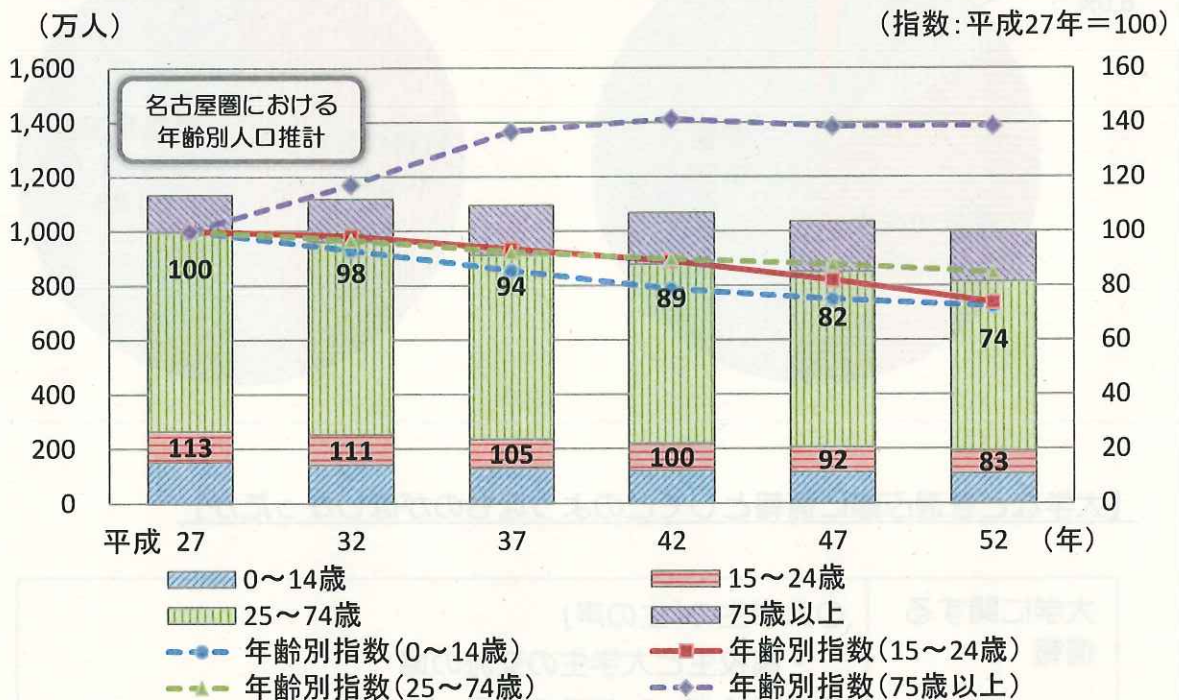
3 社会潮流の変化 ～若者の減少と圏外流出～

3-1 若者の減少

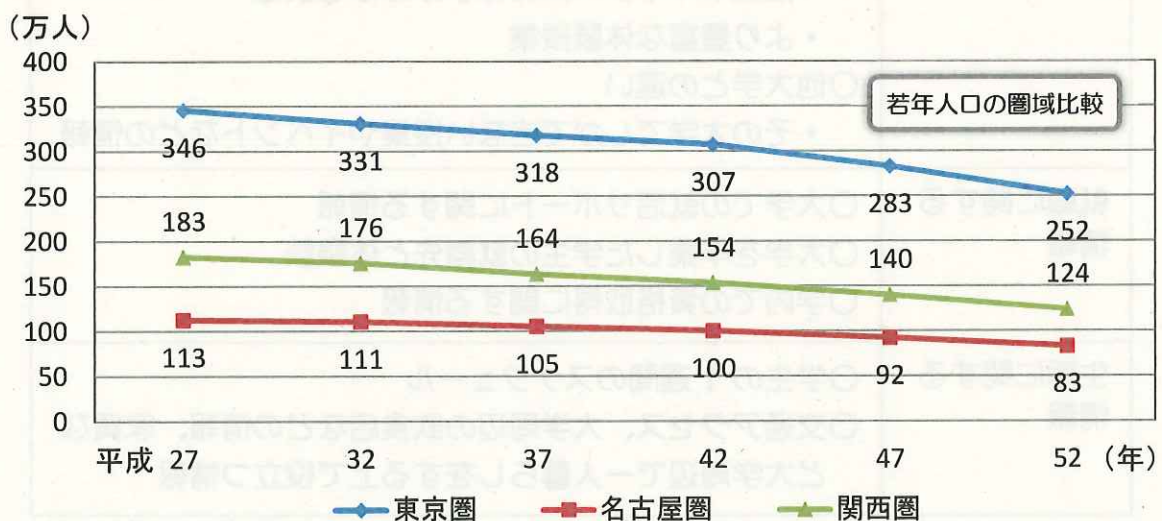
【若年人口の減少】

○名古屋圏における若年人口（15歳以上24歳未満人口）は、今後大幅に減少します。平成27年を100とすれば、25年後の平成52年には74と、約3割（30万人）の減少が見込まれます。

○この傾向は、名古屋圏に限らず、東京圏や関西圏においても同じ状況で、今後25年間で東京圏では約94万人、関西圏では59万人減少すると予測されています。



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(中位推計)より



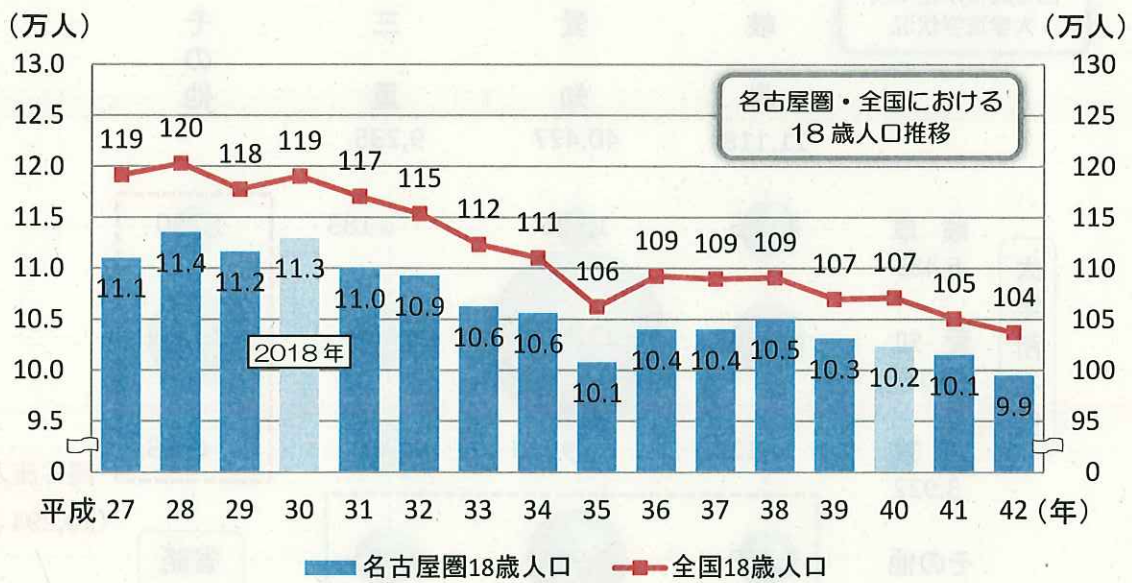
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(中位推計)より

【2018年問題の到来】

○名古屋圏における18歳人口は、全国同様、平成30(2018)年を境に減少に転じます。全国ほどでないものの、平成40年には10.2万人と、平成27年現在に比べ、18歳人口が約1万人減少するとされています。

○大学への進学率は、すでに頭打ちの状態であり、大学全入時代であることに鑑み^{かんが}ると、これ以上の進学率の上昇は期待できない状況です。

○進学率の上昇が人口減少の影響を打ち消してきたこれまでとは異なり、今後の人口減少は、名古屋圏の学生数に大きな変化をもたらす恐れがあります。



(備考) 18歳人口は、各年の18年前における出生数

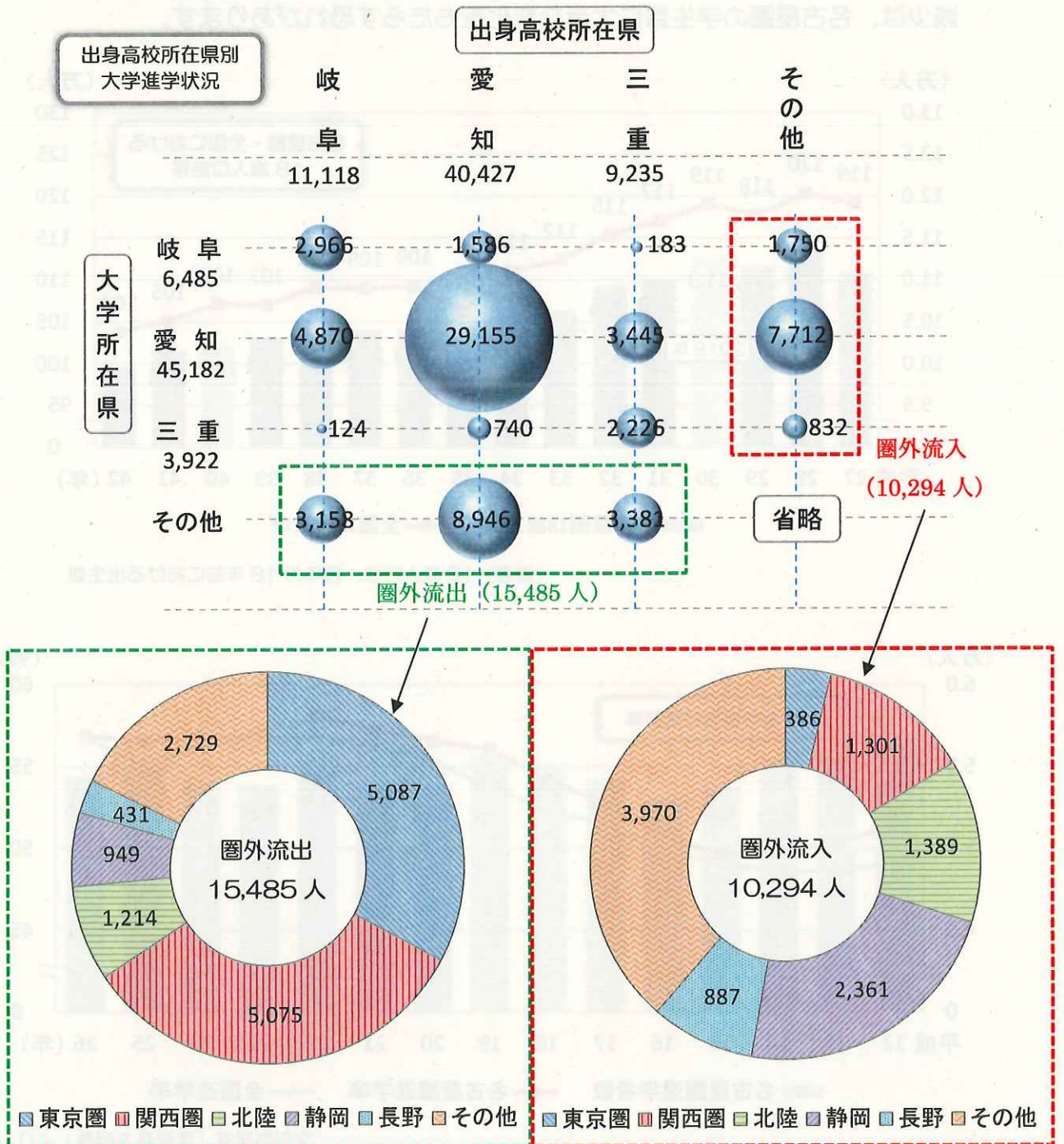


文部科学省「学校基本調査」より

3-2 学生の圏外流出

【東京圏、関西圏への学生の流出】

○名古屋圏出身の学生のうち、名古屋圏以外の大学に進学した学生は 15,485 人、一方、名古屋圏以外から名古屋圏の大学に進学した学生は 10,294 人です。
○名古屋圏から名古屋圏以外の大学に進学（流出）した学生の進学先を見ると、約 3 分の 2 が、東京圏または関西圏となっています。

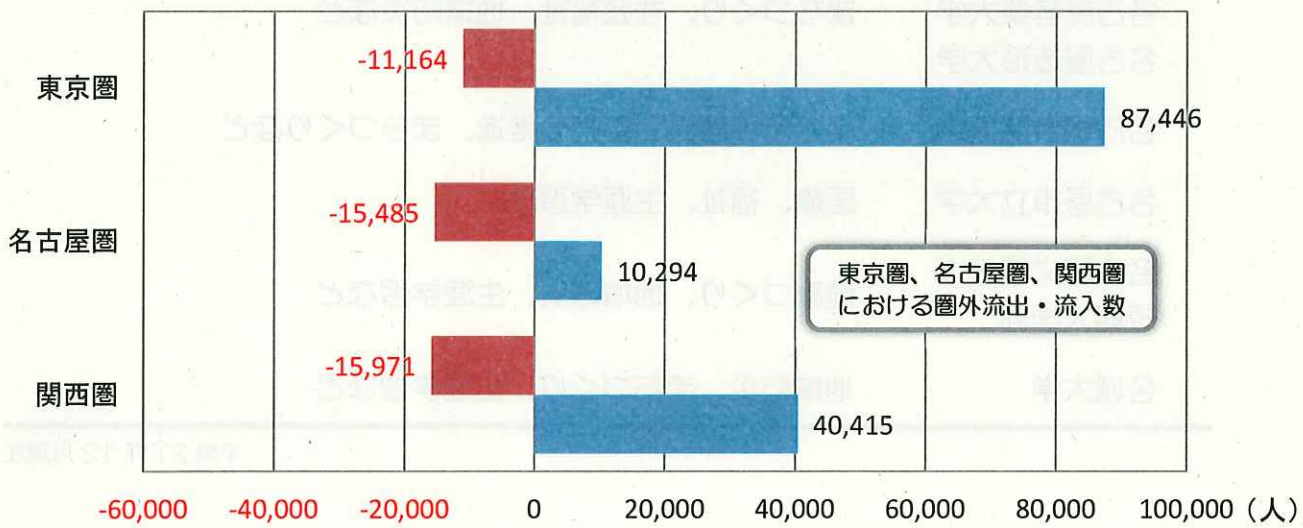


文部科学省「平成 26 年学校基本調査」より

- 東京圏、関西圏に限って見ると、名古屋圏から進学（流出）した学生が 10,162 人であるに対し、名古屋圏に進学（流入）してきた学生は 1,687 人に過ぎません。
- 18 歳人口の減少にともなう都市間競争の激化により、東京圏や関西圏への学生の流出は、今後ますます増加する恐れがあります。



文部科学省「平成 26 年学校基本調査」より



文部科学省「平成 26 年学校基本調査」より

4 大学や学生の取り組み

4-1 大学における地域連携の取り組み

- 大学における教育研究の成果を、広く社会に提供することが求められるようになったこともあり、近年、地域連携室や地域連携センターを大学独自で設置したり、行政と地域連携にかかる協定を締結したりする大学が増えてきました。
- 名古屋市内においても、医療・福祉などの専門課程を実学として学ぶ機会ととらえて地域の課題解決をはかったり、地元商店街との連携によりまちの活性化に取り組んだりしています。

(名古屋市と協定を締結した例)

大学名	協定内容
愛知大学	国際交流の促進、多文化共生、生涯学習など
愛知学院大学	生涯学習、商店街の活性化など
愛知東邦大学	まちづくり、防災、福祉、生涯学習など
金城学院大学	まちづくり、文化・芸術など
同朋大学	
名古屋音楽大学	まちづくり、社会福祉、地域防災など
名古屋造形大学	
名古屋学院大学	商店街の振興、観光の推進、まちづくりなど
名古屋市立大学	医療、福祉、生涯学習など
名古屋文理大学 短期大学部	健康づくり、地域防災、生涯学習など
名城大学	地域防災、まちづくり、生涯学習など

平成 27 年 12 月現在

(取り組み事例)

地域と育^{はぐ}む未来医療人「なごやかモデル」

(文部科学省：未来医療研究人材養成拠点形成事業)

○名古屋市立大学、名古屋学院大学、名古屋工業大学が連携し、鳴子地区で、少子化・高齢化にともなう保険・医療・福祉についてのさまざまな課題に取り組んでいます。

○学生や若い医師などが、高齢者が住み慣れた地域で暮らせるコミュニティづくりに取り組み、超高齢化社会に対応できる総合診療医などを養成しています。

主な取り組み内容

暮らしの保健室

専任の保健師が常駐して、学生と地域の住民が交流し、住民同士が暮らしや健康、医療、介護について相談することのできる場となっています。



市東南部の郊外にあたる緑区丘陵地帯に位置する鳴子団地
(昭和 38 年建設)



「暮らしの保健室」が入るコミュニティ・ヘルスケア教育研究センター
(平成 26 年 5 月開所)

4-2 ナゴ校（学生と社会のプラットフォーム）

- ナゴ校は、「学生」と「社会」（企業・地域・大学・行政）をつなぐプラットフォームとして、平成24年に名古屋市が開校しました。
- 名古屋市では、柔軟で発想力豊かな学生の活動が、地域の活性化や魅力づくりにつながるよう、ナゴ校の活動を応援しています。
- 平成27年2月現在、614人（38大学、2短期大学、8専門学校）が登録し活動しています。



【主な事業】

ナゴ校事業



主な主催事業（学生自らが企画・運営する事業）

- ・NAGOYA 学生 EXPO
- ・ナゴ校 TV
- ・名古屋まつり学生企画
- ・Candle Night Nagoya
- ・名古屋グランパススタジアムイベント
- ・未来 WORK
- ・てくてく名古屋
- ・学生 SPOT

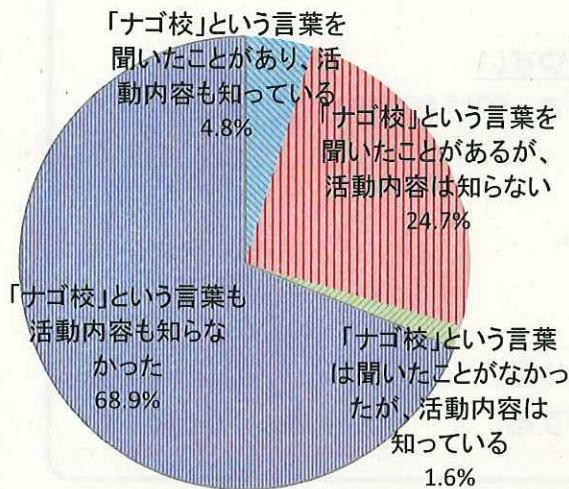


協働・連携事業（企業・地域・大学・行政の事業に連携）

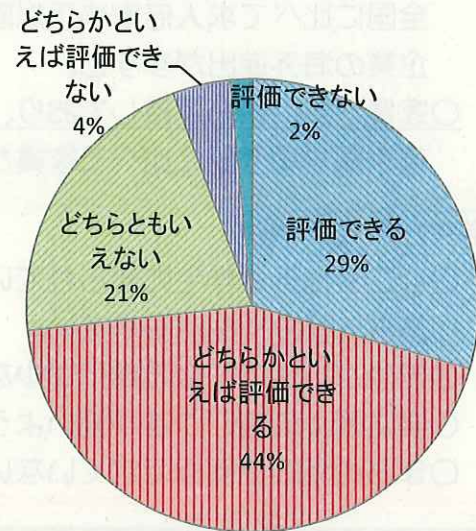
【現状と課題】（市民アンケートから）

○ナゴ校は、市民の認知度は低いものの、取り組みについては、おおむね評価されています。

ナゴ校あるいはナゴ校の活動を知っていますか



ナゴ校の趣旨や取り組みについてどのように感じますか



平成 26 年度市民アンケートより

【現状と課題】（ナゴ校生アンケートから）

○ナゴ校の活動を楽しめた人がいる反面、当初抱いていたイメージと異なり、楽しめなかったとする人もいました。

（ナゴ校の活動を楽しめた理由）

- 他大学の人や社会人など、いろいろな人と知りあえた。
- 普通の学生生活ではできないさまざまな経験をすることができた。

（ナゴ校の活動が楽しめなかった理由）

- イメージと違った。
- 活動している人がごくわずかだった。
- マンネリ化している。
- 大人に使われている。
- 活動が漠然としている。
- 組織がしっかりしていない。

5 課題整理

学生を取り巻く現状

データから見た現状

○大学が集積し地元学生を中心に学生が集まり、学びやすい

大学、学生が多く集まる。

地元の大学への進学率は低いものの、大学における地元学生率は高い。

○求人倍率や正規雇用率が高く、働きやすい

全国に比べて求人倍率や正規雇用率が高い。

企業の海外進出がすすむ。

○家賃が安く駅も近接しており、住みやすい

東京圏や関西圏に比べて家賃が低廉で、駅にも近接している。

学生から見た現状

○なごや以外の学生に知られていない。

○適度に都会で生活しやすい。

○学生が行きたくなる場所が少ない。

○学生同士の結びつきが弱いように感じる。

○まちの魅力を発信できていない気がする。

社会潮流の変化 ～若者の減少と圏外流出～

若者の減少

○少子化にともなう若者の減少

平成30年から18歳人口減少、平成40年には現在より1万人減少。

学生の圏外流出

○東京圏・関西圏への学生流出

都市間競争の激化により、学生流出が増加する恐れがある。

大学や学生の取り組み

大学における地域連携の取り組み

○社会貢献に取り組む大学が増加

行政と地域連携にかかる協定を締結する大学が増加している。

ナゴ校（学生と社会のプラットフォーム）

○趣旨は評価されるも認知不足

7割が趣旨を評価しているものの、全く知らない市民も7割いる。

(課題整理)

現状や社会潮流の変化などをふまえ、学生タウンなごやの推進にかかる課題を下記のとおり整理します。

(1) まちの特性を活かした、人づくりが必要です

- 少子化・高齢化、グローバル化の進展により、地域や企業が求める人材は、高度化、多様化が進み、その育成は急務です。
- なごやには、特色ある中小企業から世界で活躍するグローバル企業まで多彩な企業が集積するとともに、さまざまな地縁団体が活動する地域もあります。
- このまちの特性を活かし、まちの活力を高めるためにも、大学、地域、企業、行政の連携による、これからのなごやを支える人づくりが必要です。

(2) 学生の活力を活かした、まちづくりが必要です

- なごやでは、各大学が行政と協定を締結するなど、地域の課題解決や魅力向上に向けた取り組みを深めています。学生と社会をつなぐプラットフォームとして設立されたナゴ校も、学生 EXPO など、まちの魅力を高めるために活動しています。
- しかし、ナゴ校の取り組みは、市民の評価は高いものの、十分に認知されておらず、大学の取り組みについても、大学と地域との個々のつながりにとどまり、学生が多く大学が集積しているという強みを十分に活かしていません。
- なごやにおけるまちの魅力をより高めるためにも、大学、地域、企業、行政が連携し、学生の活力を活かしたまちづくりが必要です。

(3) 学生から愛されるまちとしての、ブランドづくりが必要です

- なごやは、東京圏や関西圏同様、都市としての利便性が高い一方、東京圏や関西圏よりも家賃が安いなど住みやすく、また、多様な大学が集積し、学びたいことが学べる環境も整っています。
- 一方、学生から「なごや以外の学生に知られていない」といった声が聞かれるように、大学や学生が集まり、かつ、住みやすく学びやすいといったまちの魅力が、全国に知られていません。
- 全国から学生が集まるよう、学生にとっての魅力を高め、発信し、学生から愛されるまちとしてのブランドづくりが必要です。

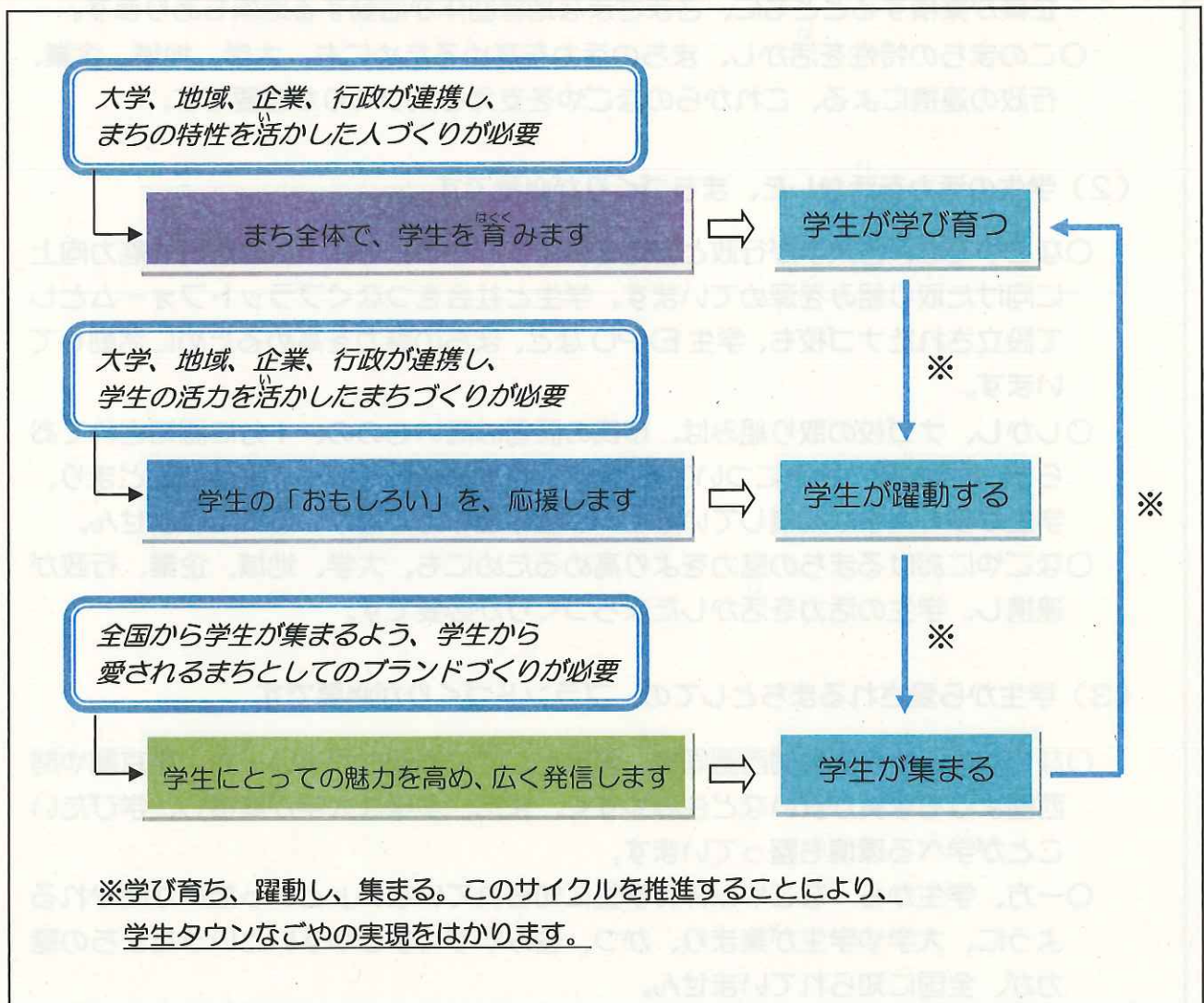
6 基本目標と方向性

(基本目標)

学生が学び育ち、躍動し、集まるまち・なごや

- 学生が大学、地域、企業すべてをキャンパスとして学び育つようにします。
- 学生がまち全体で、いきいきと活動できる（躍動する）ようにします。
- 学生がなごやの魅力に惹かれ、全国からなごやに集まるようにします。

(考え方)



(取り組みの方向性)

基本目標の実現のため、取り組みの方向性を下記のとおり定めます。

(1) まち全体で、学生を^{はく}育みます

- なごやにおける大学、地域、企業すべてをキャンパスとして、ローカルな視点とグローバルな視点をあわせ持つ、人材を育成します。
- また、なごやの特性であるものづくり文化をより高めるため、大学、企業、行政が連携し、人材の育成につとめます。

(2) 学生の「おもしろい」を、応援します

- 学生の活力が、まちの魅力として還流するように、大学における地域の課題解決・魅力向上に向けた取り組みや、学生の自由で自発的な活動を応援します。
- 学生の活動が実現し、持続的に展開されるよう、大学、地域、企業、行政との連携が円滑にすすむような仕組みを設けます。
- また、取り組み事例の共有化や、学生が集えるような場の設置につとめます。

(3) 学生にとっての魅力を高め、広く発信します

- 地元はもとより、全国の人々からなごやで学びたい、学ばせたいと思われるよう、学生にとっての魅力を掘り起こすとともに、なごやの魅力を広く発信します。
- 住みやすく、働きやすく、学びやすい。そのようななごやの魅力を発信し続けることで、学生から愛されるまちとしてブランド化につとめます。

(成果指標)

ビジョンの推進状況を示す「ものさし」として、成果指標を設定します。

指 標	現状値 (26年度)	目標値 (31年度)	目標値 (40年度)
市内にある大学の学生のうち 出身が東海3県外である割合	15%	19%	30%

7 実現に向けた取り組み

基本目標「学生が学び育ち、躍動し、集まるまち・なごや」の実現に向け、方向性ごとに、今後5年間における取り組みを整理しました。

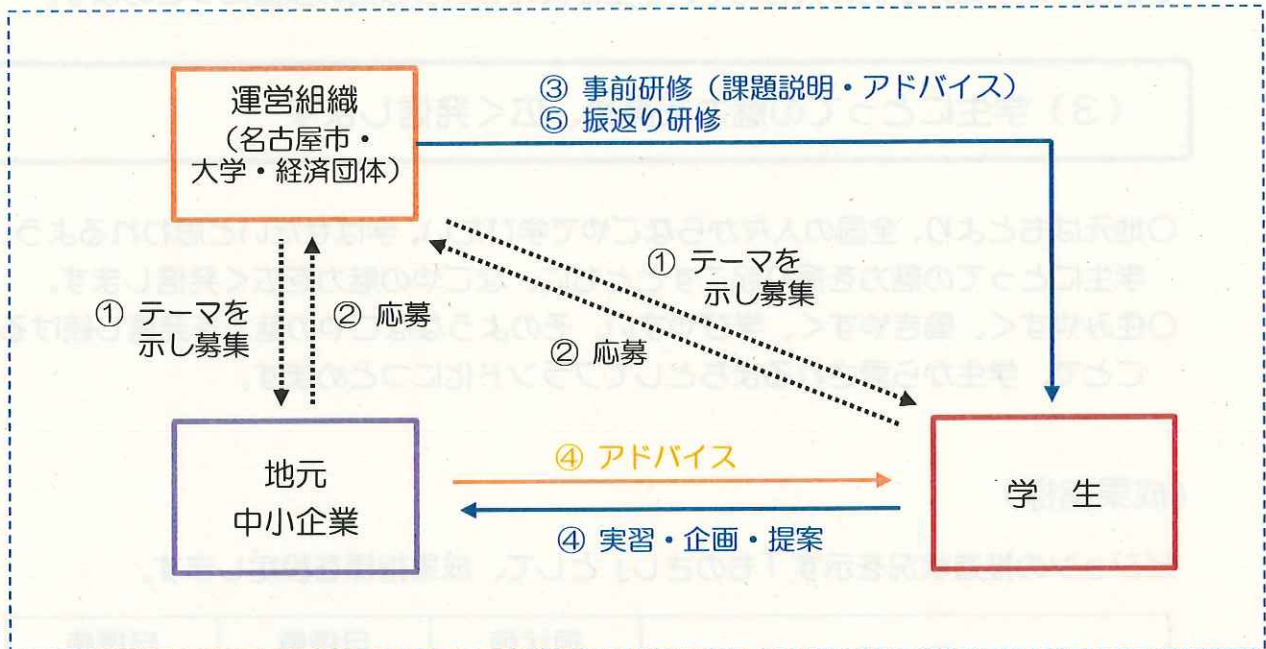
方向性1 まち全体で、学生を^{はぐく}みます

企業におけるインターンシップや、地域におけるボランティア活動を通して、学生を^{はぐく}みます。

取り組み1 実践型インターンシップなどを通し、なごやを担う人材の育成につとめます

- 地元中小企業が実際に抱える課題の解決に向けたプランを学生が企業とともに考え企画・提案するなど、学生が目的意識をもって取り組めるような実践型インターンシップを、大学や経済団体と連携し実施します。
- 経済団体などと連携のうえ、グローバルに活躍している企業や地域で活躍している企業が講師を務めるキャリアセミナーの充実をはかります。

(イメージ図) 実践型インターンシップ



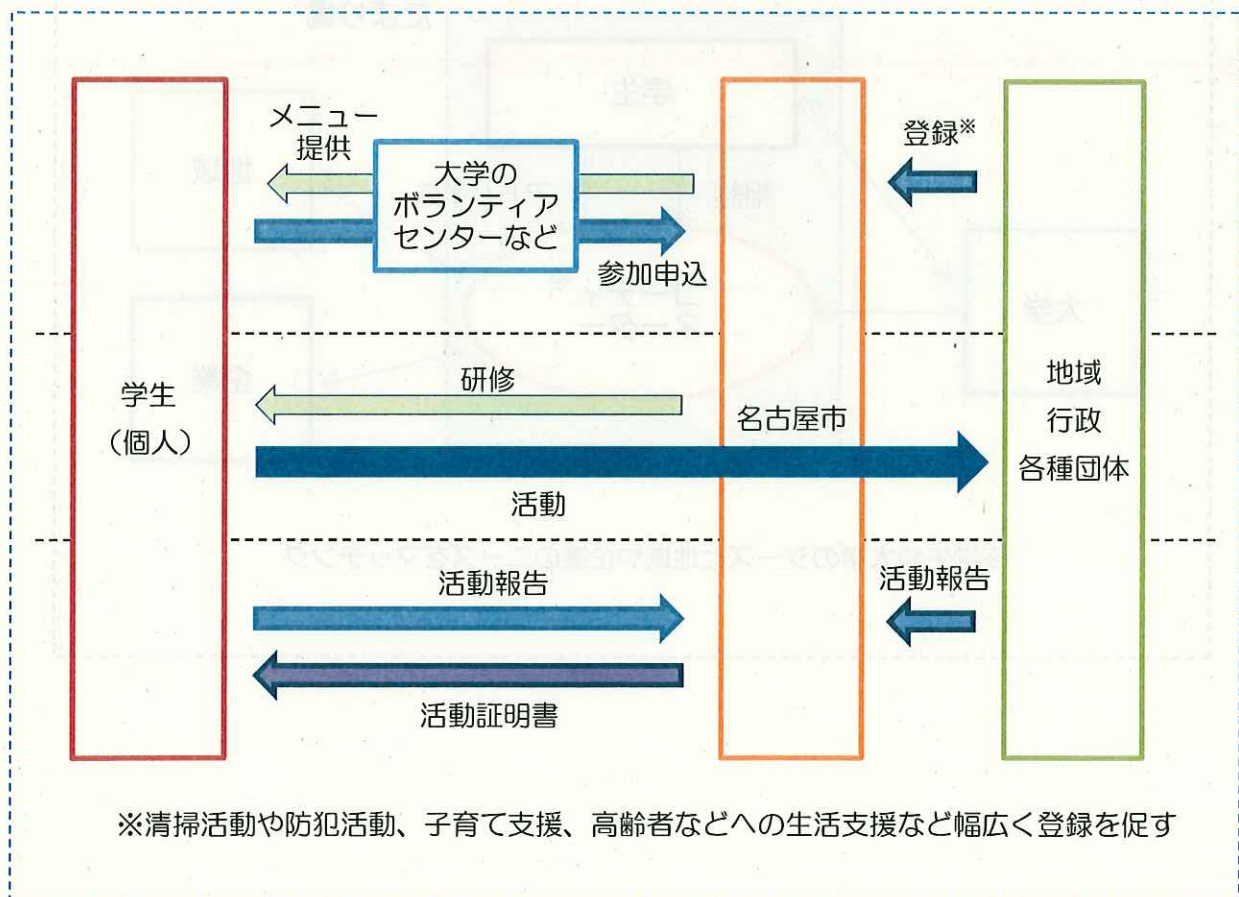
取り組み2 ボランティア活動を通し、地域を担う人材の育成につとめます

- ボランティア活動に関する情報は、ボランティアを必要とする団体から登録を受け付け、興味のある学生に幅広く提供します。
- 活動を通して、より多くのことを学びとることができるよう、事前オリエンテーションや定期的な振り返りの場を設けます。

取り組み3 ボランティア活動が社会的に評価される仕組みをつくります

- 中長期にわたるボランティア活動に従事した学生に対して活動証明書を発行するなど、熱心に活動に取り組んだ学生が社会的に評価される仕組みを構築します。
- 活動証明書の発行などを通して、活動にかかわる学生の意欲を高めるとともに、活動にかかわっていない学生に動機付けを与えます。

(イメージ図) 取り組み2, 3



方向性2 学生の「おもしろい」を、応援します

学生活動を応援するため、活動拠点や活動を支援する仕組みを設けます。

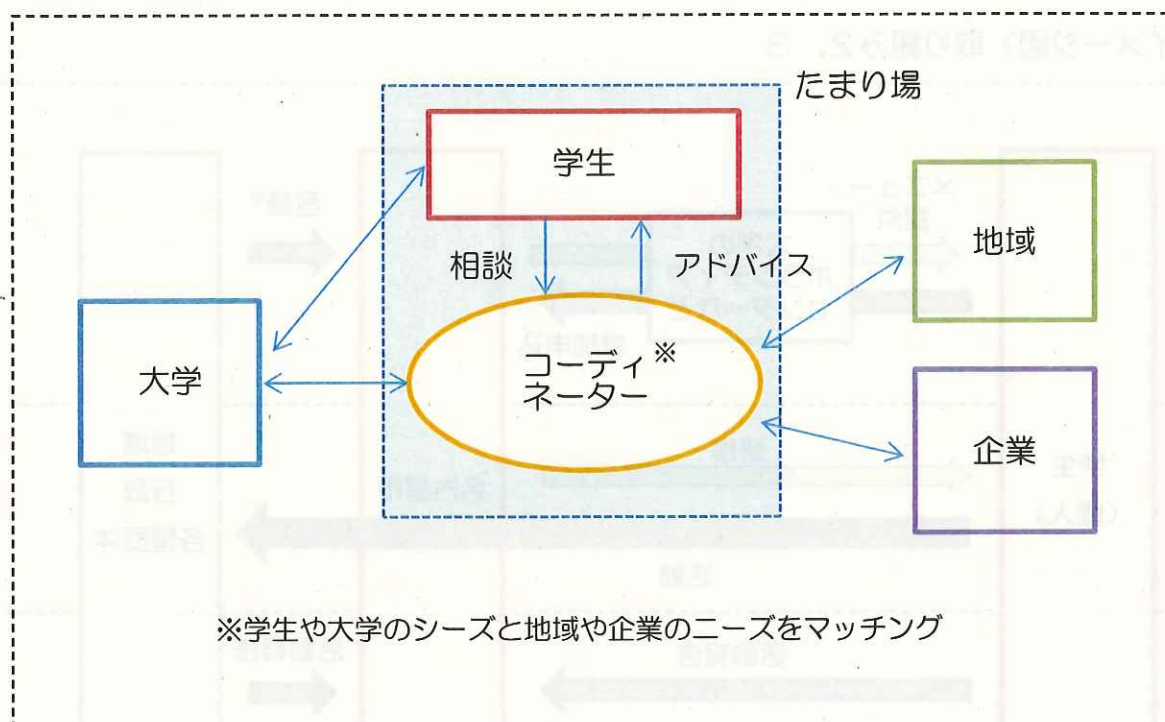
取り組み1 学生の共同活動拠点(たまり場)を設けるとともに、学生(大学)と、地域や企業をつなぐ仕組みをつくれます

○学生が自由に利用でき、学生が集える場(たまり場)を設けます。

○たまり場は、学生が活動の企画を練ったり準備をしたりと、学生の活動の拠点として、また、留学生や異なる大学の学生同士が出会い、語りあえるような交流の拠点として整備します。

○大学、学生、地域、企業におけるさまざまな情報が、コーディネーターのもとに一元的に集まり、コーディネーターを基点に、互いの情報が交換できるようにします。

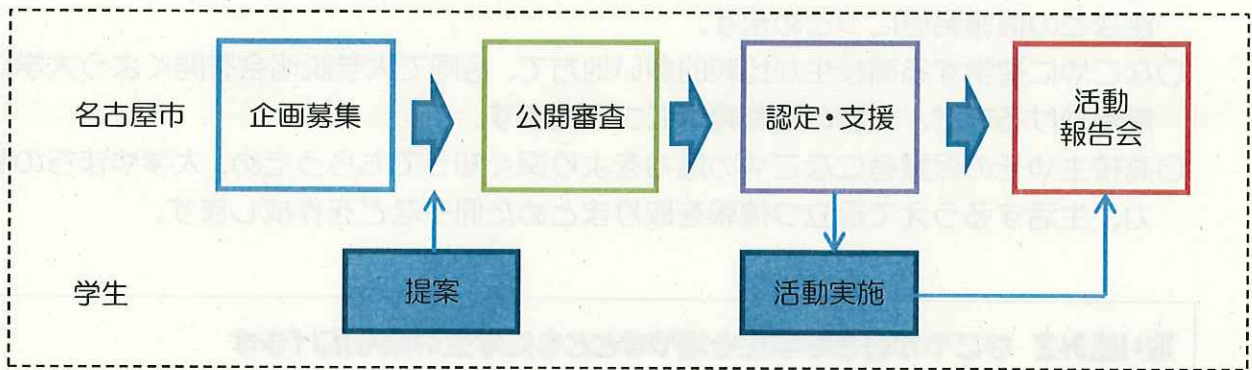
(イメージ図)



取り組み 2 学生活動を支援する仕組みを設けます

- 活動している学生にとって励みとなり、また、これから活動しようとしている学生にとっては参考となるよう、地域に貢献している学生活動を表彰し、発表します。
- 学生企画コンテストを実施し、地域の課題解決などに資する企画を認定・支援するなど、学生の活動意欲を引き出します。
- 活動報告会などを通して、これら学生の相互交流も促します。

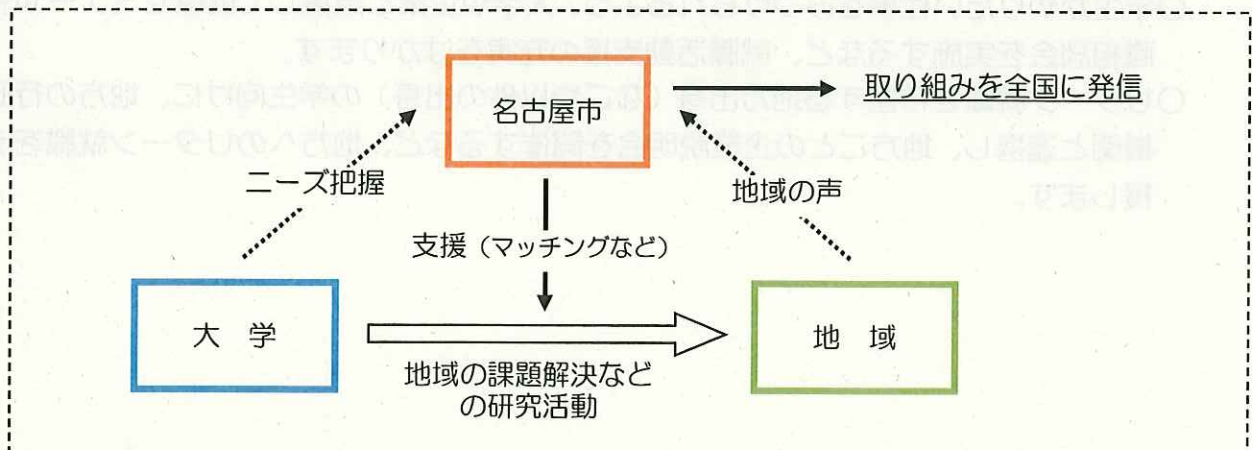
(イメージ図) 学生企画コンテスト



取り組み 3 大学の地域における研究活動を推進します

- 大学の研究室（ゼミ）などにおける地域の課題解決や魅力向上に関する取り組みなど、まちなかをフィールドとした研究活動を支援します。
- 大学の研究活動を通して、学生が大学教員などの指導のもと、より専門性を活かし、いきいきと活動が行えるようにします。

(イメージ図)



方向性3 学生にとっての魅力を高め、広く発信します

学生から学びたい、働きたいと思われるよう、なごやの魅力を発信します。

取り組み1 高校生からなごやで学びたいと思われるよう情報発信します

- 高校生が、学びたいテーマや教授に出会えるよう、大学における高校生向け公開講座などの情報発信につとめます。
- なごやに進学する高校生が比較的多い地方で、合同で大学説明会を開くよう大学に働きかけるなど、大学の情報発信につとめます。
- 高校生やその保護者になごやの魅力をより深く知ってもらうため、大学やまちの魅力、生活するうえで役立つ情報を取りまとめた冊子などを作成します。

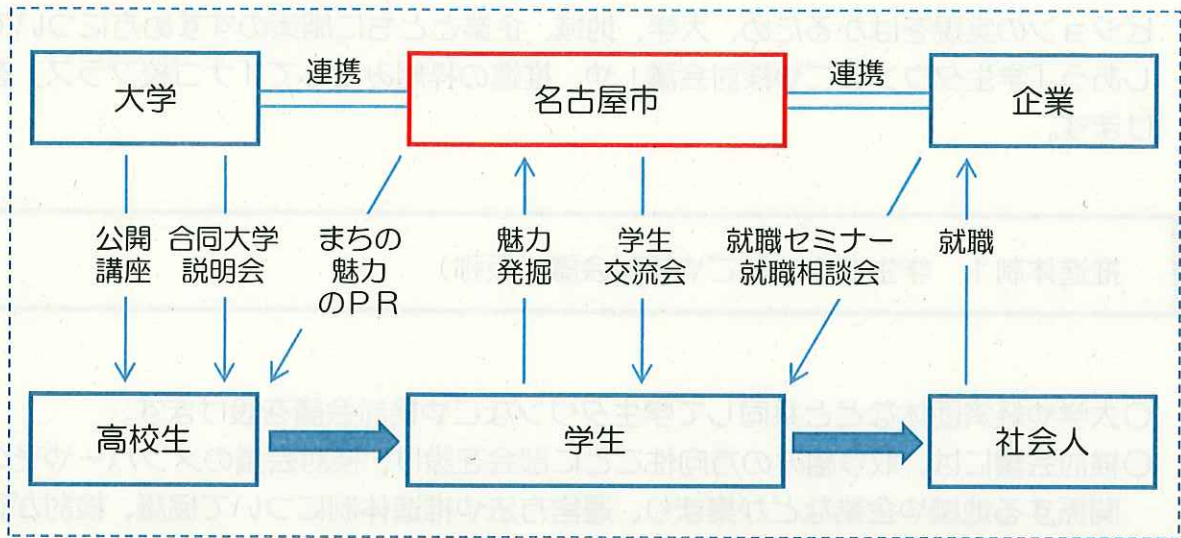
取り組み2 なごやが好きな学生を増やすとともに学生の輪を広げます

- まちの隠れた魅力や見落としがちな魅力を学生視点で掘り起し、映像や写真などを用いて発信することで、なごやのことが好きになる学生を増やします。
- 留学生との交流を通して、留学生から見たまちの魅力を発信します。
- 学生同士の情報交換を促す交流会を開催するなど、学生の輪を広げます。

取り組み3 学生が希望する働く場が見つかるようにします

- 学生がやりたい仕事をみつけられるよう、大学や企業と連携して就職セミナーや就職相談会を実施するなど、就職活動支援の充実をはかります。
- Uターン就職を希望する地方出身（なごや以外の出身）の学生向けに、地方の行政機関と連携し、地方ごとの企業説明会を開催するなど、地方へのUターン就職を支援します。

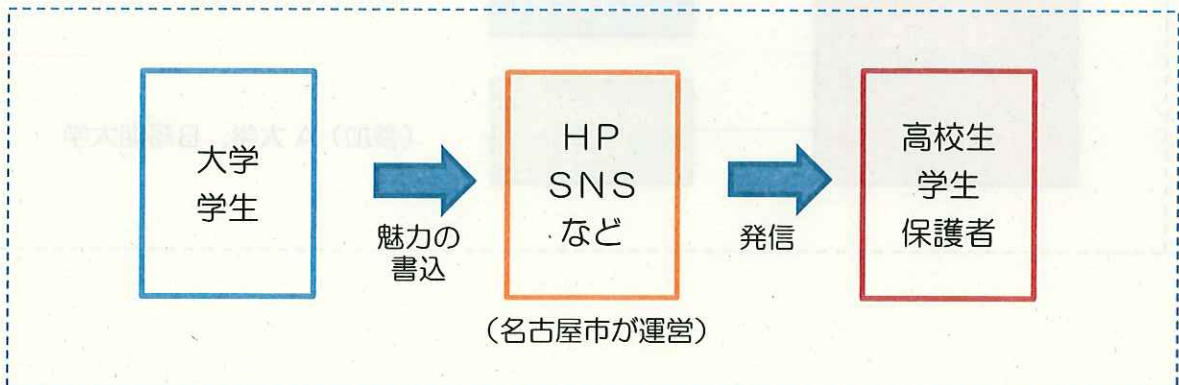
(イメージ図) 取り組み1～3



取り組み4 大学やまちの魅力を、多様なメディアを活用して全国に発信します

○なごやにおける大学やまちの魅力を、全国の高校生や大学生などに発信します。
 ○OHP、SNS（ツイッター・フェイスブックなど）、ロコミ、マスコミなど、メディアミックスを意識した発信につとめます。

(イメージ図)



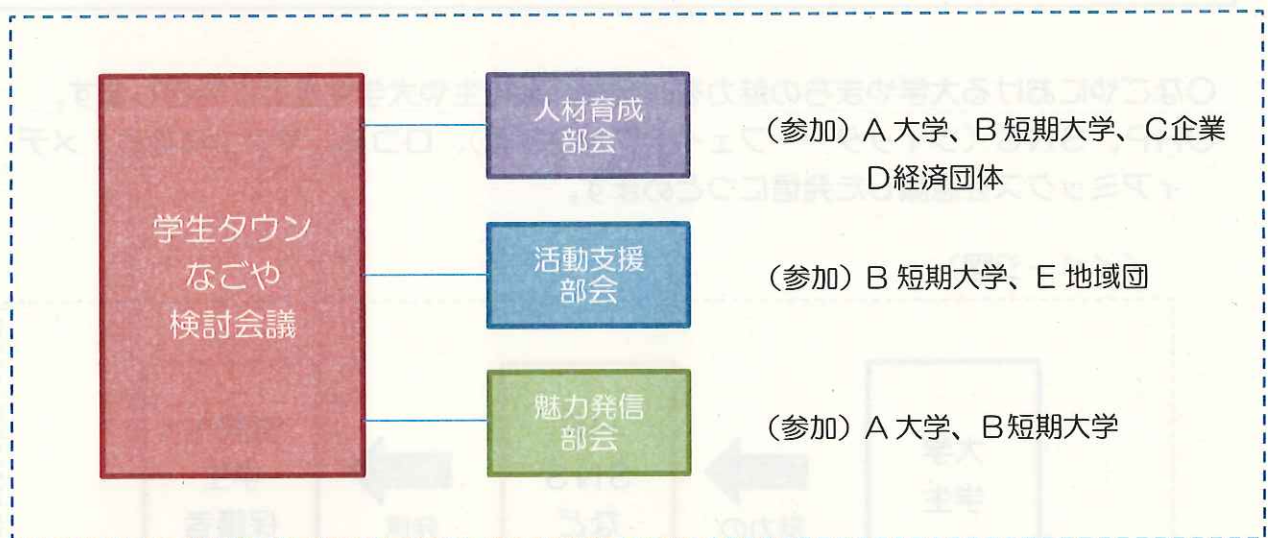
8 推進体制

ビジョンの実現をはかるため、大学、地域、企業とともに施策のすすめ方について話しあう「学生タウンなごや検討会議」や、推進の枠組みとして「ナゴ校プラス」を設けます。

推進体制1 学生タウンなごや検討会議（仮称）

- 大学や経済団体などとともに学生タウンなごや検討会議を設けます。
- 検討会議には、取り組みの方向性ごとに部会を設け、検討会議のメンバーやその他関係する地域や企業などが集まり、運営方法や推進体制について協議、検討が行えるようにします。

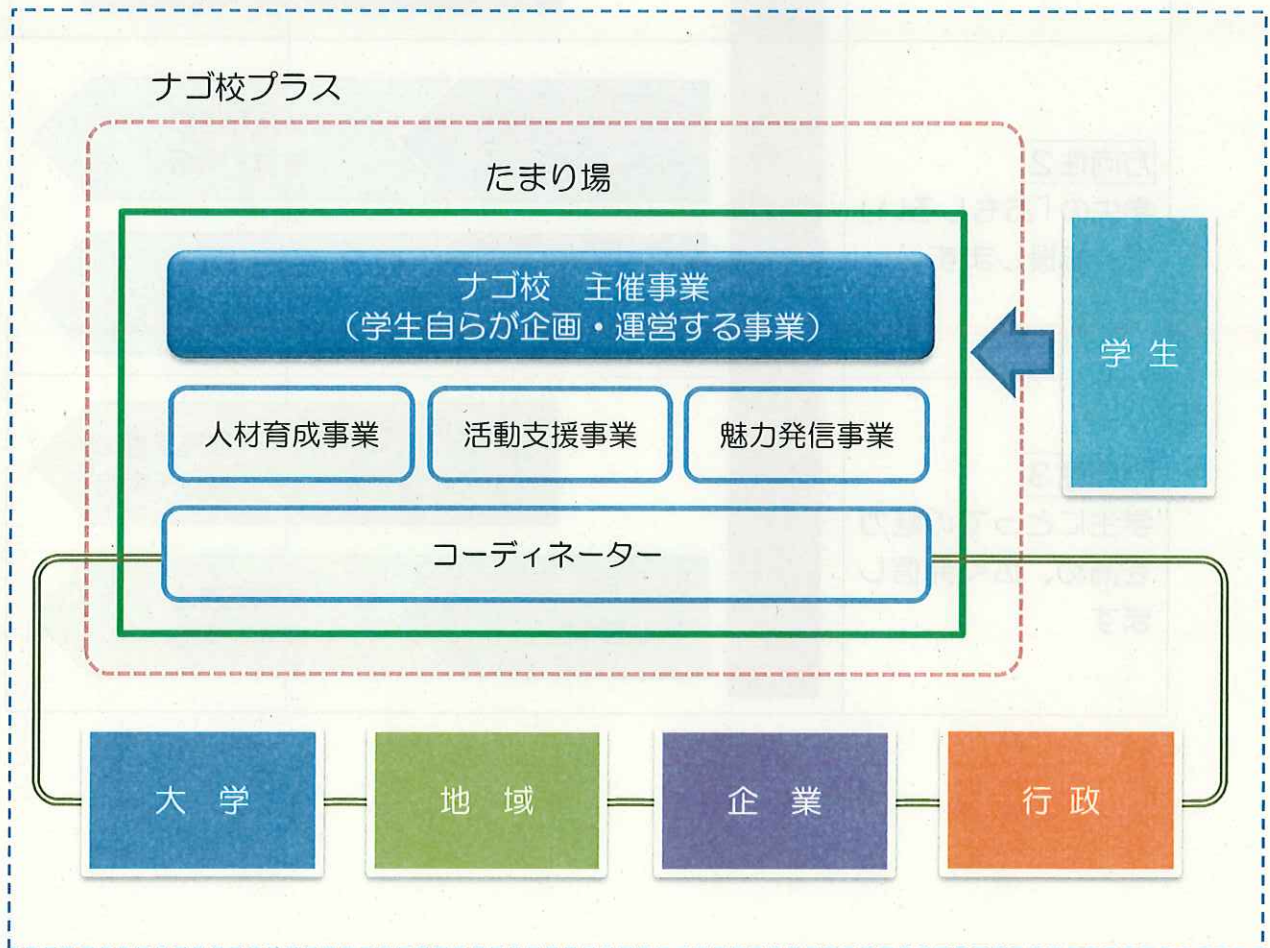
（イメージ図）



推進体制2 ナゴ校プラス（仮称）

- ナゴ校に学生の共同活動拠点（たまり場）、コーディネーター、学生が利用できる人材育成メニュー、活動支援メニュー、魅力発信メニューを新たに設け、ナゴ校におけるプラットフォーム機能（学生と社会をつなぐ）を高めます。
- この新しいナゴ校（ナゴ校プラス）を機軸に、学生タウンなごやの推進をはかります。

（イメージ図）



(スケジュール)

